

神戸市外国語大学 | 追加説明資料





神戸市外国語大学

Contents

1.改革の前提

国際都市・神戸の変遷と
これからの時代に必要とされる人物像

2.改革案

ディプロマ・ポリシーの見直し
および新学科構想とコース制の再編



「国際都市・神戸」と本学の役割

(1) 過去（1946年開学以降）

東洋第一の良港を有する神戸市が、国際都市として再建を遂げ、その国家的使命を発揮

⇒**外国語教育の飛躍的振興と「新しい貿易人」の養成；**

今後の我国が大いに必要とする外交界・語学教育界他直接間接に国際文化活動に従事する人材の育成（設置認定申請書の設置要項「目的及び使命」）



(2) 現在～将来（2026～2040年）

① 少子高齢化、人手不足、外国人流入の加速、神戸空港の国際化

② 生成AI（デジタル）と知能ロボット（フィジカル）前提社会へ移行

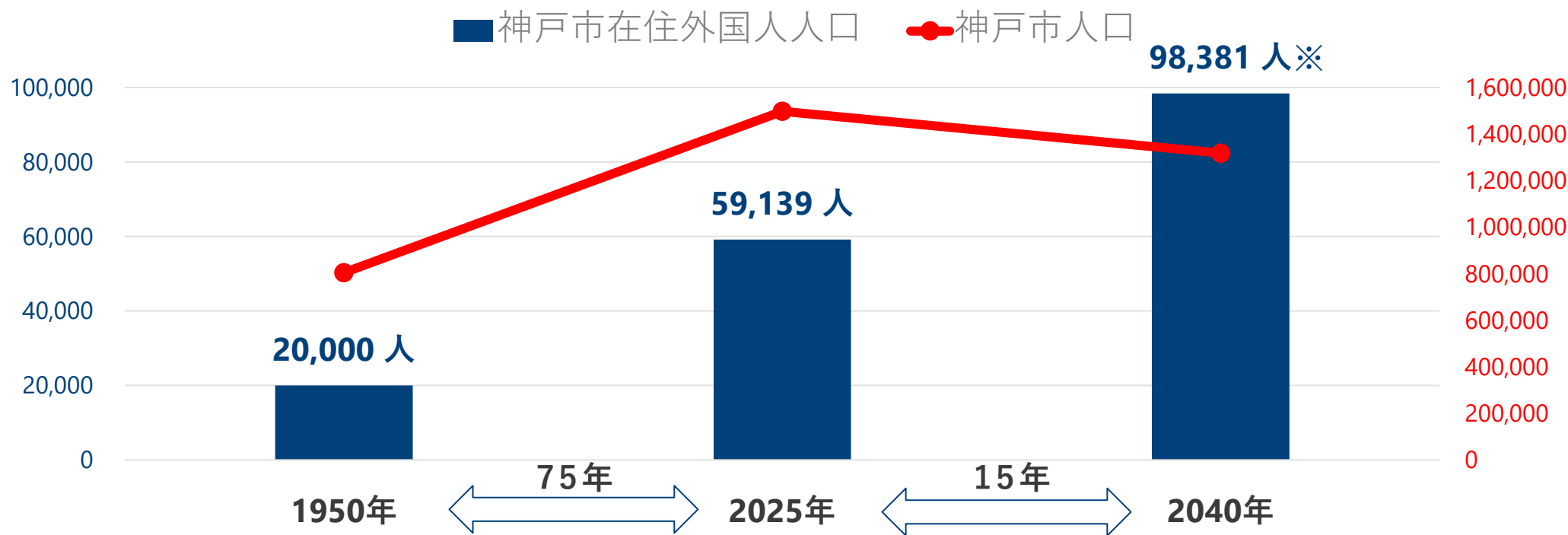
⇒**多様な価値観と先進技術を融合し、社会に新たな価値を創造する
高度人材の育成**



1. 改革の前提

神戸市外国人比率の増加

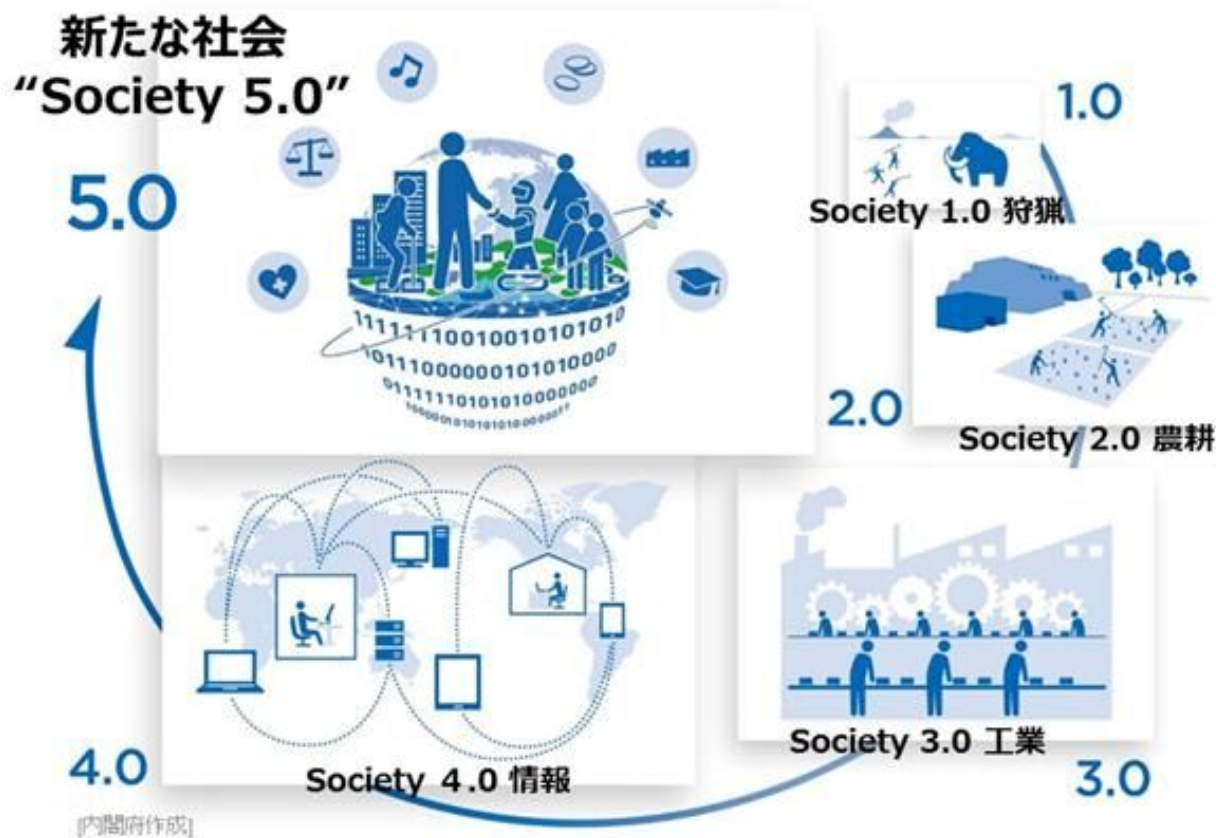
- 今後過去を上回るペースで外国人居住者が増加



※2040年の数値は日本全体の社人研推計に2025年の神戸市が日本全体に占める割合（1.6％）を乗じた推計値

神戸市外国語大学

目指すべき未来社会の姿として「**サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society 5.0）**」を提唱





参考2：文部科学省における議論（2026.8.3 教育課程部会 外国語ワーキンググループ 取りまとめ案より）

AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理（Ver. 4）

補足イメージ①

－自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から－

1. 言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
- ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される

● コミュニケーションへの深い理解を促す

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
 - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
 - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り等）
- ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2. 自分の考えが磨かれて思考が深まるとともに、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
- ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、多面的視野に繋がる

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）



1. 改革の前提

AI時代における語学教育の意義

生成AIに依存するリスク

① 誤情報（ハルシネーション）、情報の量的支配と言語間格差（サーチドミナンス）、根拠の不透明性、考える力・生み出す力の衰退、思考の単純化

⇒思考深度の二極化

②AIは効率化・最適化された二次的情報を伝達処理するだけで、人に「関心」を持たない。

⇒生身の他者を動かすコミュニケーションスキルは別で鍛える必要



深い思考訓練と多様な他者とのコミュニケーションを鍛える専門的語学教育は知の足場

⇒AIをツールとして利用しながら、そこから新たな価値を創造し、最終判断に責任を持ち行動する主体的「知的リーダー」の育成

⇒多様な他者との身体性を伴う一次的で直接的なコミュニケーションスキルの獲得と、複雑化する対人間・対異文化の現場での諸課題への対応力の涵養



2. 改革案

これからの時代に外大が育成する人物像

「多様な価値観と先進技術を融合し、

社会に新たな価値を創造する高度人材」が備える資質

- ① 学際的な視野での課題発見・解決能力
- ② 生成AIの制御・活用スキル
- ③ 多様な他者と建設的対話ができる高度なコミュニケーション能力



2. 改革案

本学の特徴

● 行動する国際人

複雑化・多様化する国際社会において、ビジネス・外交・教育・研究などの様々な分野で国際的視野と協調性を持ち能動的に行動し活躍できる人材の養成を目指す。

● 小規模な単科大学

学生間・教員との距離が近く、広く留学や将来について意見交換や教員が個別指導をできる環境にある。

(例1：留学希望者が留学経験者と話す中においても、他の国・地域を学ぶことについて、見識を広めるきっかけになっている)

(例2：語劇祭、全国大学生マーケティング・コンテスト、模擬国連などにより、学科にとらわれない、全学的・国際的な取組がなされている)



2. 改革案

本学の人材育成方針

● 行動する国際人

複雑化・多様化する国際社会において、ビジネス・外交・教育・研究などの様々な分野で国際的視野と協調性を持ち能動的に行動し活躍できる人材の養成を目指す。



「第6次神戸市基本計画」で掲げる方向性の実現に寄与

多様な文化や人との交流を促進し、グローバルに活躍する人材を育み、受け入れ、そして神戸への想いを胸に世界へ羽ばたいていく流れを加速させていきます。

※方向性Ⅰ～世界と繋がる2つの港「新たな時代の国際都市」へ～より抜粋

⇒本学の人材育成方針を新たな時代に実現するためにカリキュラム体制の再編議論を開始（次ページ）



2. 改革案

ディプロマ・ポリシーの見直し（詳細次ページ）

現行		改正案
能動的に学ぶ力 （全学共通科目）	→	能動的・ 領域横断的に学ぶ力 →文理横断科目を設置方針として明記
世界の多様性を観る力 （学科基礎科目）	→	世界の多様性を観る力
高度な外国語運用能力 （専攻語学・兼修語学等の語学科目）	→	高度な外国語運用能力
専門的思考力・表現力 （コース科目）	→	専門的思考力・表現力 →PBL科目の増設、コース制の再編
グローバル化された社会で 行動し生きる力（研究論文・卒業論文）	→	グローバル化された社会で 行動し生きる力

※ディプロマ・ポリシーは2021年度のコース制再編時に改変したものをアップデート



2. 改革案

ディプロマ・ポリシーの見直し

● 能動的・領域横断的に学ぶ力

- ・ 全学共通科目＜設置方針＞大学での学びや大学生活を送る上で必要不可欠な科目
→ 科目を精選・再編（71科目※→47科目）※全学共通科目から、語学系科目、海外派遣留学科目、インターンシップ、教職課程必修科目等を除く、精選・再編対象科目数
- ・ 文理横断科目＜設置方針＞社会人として必要不可欠な
数理・データサイエンスに関わる科目
→ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム科目及び高専連携科目の増加
(一部設置済)

● 専門的思考力・表現力

- ・ 全学的な科目＜設置方針＞各コースが対象とする学問領域の専門性を養う科目
「コース基礎」専門とする学問領域において最低限身につけておくべき内容を扱う科目
「コース発展」専門とする学問領域における発展的科目ないしは各論的科目
→ 各コース（語学系コース含む）で最低1科目の PBL 授業を導入（一部設置済）

2. 改革案 カリキュラム体制の再編

従来のコース
[国際法政][経済経営]
を分野横断的に改組し、
実践への橋渡しを強化

従来のコース内容を強化
・日本語教員の養成
・AI・ロボットとの共生 等

・高専と共同
開発したAI
ロボットの
活用

・多言語習得
を奨励
・日本語教員
養成課程を
設置

コース 学科	語学文学	グローバル 政策(仮称)	国際ビジネス (仮称)	多文化共生	リベラル アーツ
英米	○	○	○	○	○
ロシア	○	○	○	○	○
中国	○	○	○	○	○
スペイン	○	○	○	○	○
国際関係		いずれかを主専攻として選択		○	○
新学科	○	○	○	いずれかを主専攻として選択	

※○はコースとして選択可能であることを示す（語学科は主専攻、国際関係および新学科は副専攻扱い）



2. 改革案

新学科構想

● コンセプト

- ・人文科学の専門的知見を活かし、グローバル化に伴い生じる諸問題を発見・批判的に考察させ、様々なバックグラウンドを有する人々と新たな価値を創造することができる人材を育成。
- ・具体的には、多言語をより履修しやすいカリキュラム、多文化共生に関する教育プログラムを強化し、国内平均を超え、今後も増加が予想される神戸市の在住外国人に即応する。
- ・地域協働、ボランティアなどによる神戸のファンを育成する取組、高専との連携等による文理融合教育・課題解決型の科目（PBL科目）を充実する。

⇒異なる言語的・文化的・技術的背景を持つ人間同士および

人間とAI・ロボットとの間での共生のあり方を学際的見地から研究・教育



2. 改革案

新学科の特長

● 総合文化グループをコアとする新学科

加速する多文化社会・高度情報化社会を支える知的リーダーに必要な人間力を強化するため、総合文化グループ（教養・専門科目担当）を新学科に再編。

（既存の教員リソースの最大限活用；英米学科（第2部も含む）の定員見直し）

● 多文化社会に適応する多言語習得の強化

多様な他者との高度なコミュニケーション能力の育成のために、多言語習得の奨励を図り、生成AIを効果的に利活用した効果的なカリキュラムへ見直し。

2. 改革案

人文科学系コースの強化 ※新学科以外でも選択可能

● 多文化共生コース

複数の外国語並びに日本語をツールとし、これらの言語やその言語圏の背後にある文化的背景に関する知識を基盤に、多様な背景を持つ外国人に「日本」を伝えることを通じて、異なる文化間の共生を達成することを柱とする。

⇒日本語教員養成課程を設置し「日本」を伝える役割を持たせる

● リベラルアーツコース

幅広い学問分野にわたる学際的知見を活用しながら、「人間とは何か」を探究するとともに、特にAIとの共生時代において、次世代の社会を形づくる新たな価値を創造する力を育成することを柱とする。

⇒人間とAI・ロボットとの共生を人文学の多角的見地から探究する

2. 改革案

社会科学系コースの再編 ※新学科以外でも選択可能

⇒従来の学問体系を基軸とする「国際法政コース」・「経済経営コース」から、応用・実践を見据えた分野横断的コースへ

● グローバル政策コース（仮称）

国際関係論、政治学、法学、経済学、地域研究などの専門領域の知見を深め、一国のみでは対処できない国際社会が抱える諸課題を理解し、解決する力を養い、より良い国際秩序に寄与するのに必要な構想力と実践力を培うことを柱とする。

● 国際ビジネスコース（仮称）

経営学、経済学、法学などの専門領域を体系的かつ総合的に学ぶことで、国際社会の中で企業が直面する諸課題を理解し、解決する力を養い、持続可能なビジネスモデルを構築するために必要な構想力と協働を実現するマネジメント能力を育成することを柱とする。

2. 改革案

ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの方針

- 能動的・領域横断的に学ぶ力
→ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム科目、高専連携科目
- 世界の多様性を観る力
→ 新学科基礎科目の開設、国際関係学科基礎科目の見直し
- 高度な外国語運用能力
→ 留学を促進する履修環境の拡充（単位認定の柔軟化の検討など）
高専と共同開発するAIロボットの活用（語学科）
独自の実践的語学教育プログラムの開発（国際関係学科・新学科）
- 専門的思考力・表現力
→ PBL科目の増設、コース制の再編
- グローバル化された社会で行動し生きる力

地域・社会への貢献

※神戸市（および関連団体）の連携先

（１）地域貢献の拡充

- ・インバウンドガイドの養成 ※神戸観光局
- ・日本語学習サポート ※神戸国際コミュニティセンター（KICC）
- ・国際医療コミュニケーション実践プログラム ※神戸市医療産業都市部

（２）新たな地域貢献

- ・日本語教員や異文化間の媒介を専門とする人材の輩出、および教員・学生による外国人が多い地域の課題解決 ※KICC、地域団体等
- ・高専と連携した独自の技術力を有する市内企業の海外展開支援、文理融合によるPBL型授業による課題解決 ※産業・就労支援財団等

⇒ 公立大学として、人を中心に発展する新たな時代の
「国際都市・神戸」のブランド力の向上と市政課題の解決に寄与

カリキュラム・ポリシー（案）¹

教育課程の編成に関する基本方針

ディプロマ・ポリシーが定める5つの資質は以下のように関係づけられます。

「1. 能動的・領域横断的に学ぶ力」と「2. 世界の多様性を観る力」は、本学の学びを基礎づける資質となります。この基礎の上に「3. 高度な外国語運用能力」と「4. 専門的思考力・表現力」という複眼的な資質を養うことを目指します。これら4つの資質に基づいて「5. グローバル化された社会で行動し生きる力」を養成し、「行動する国際人」の育成を図ります。

この考え方に基づいて、カリキュラム・ポリシーではディプロマ・ポリシーで定める5つの資質の育成に主として寄与する科目群を策定するとともに、別に定めるカリキュラム・マップを通じて各授業科目がどのような資質の育成を図ろうとするかを明示することにより、体系性を持った教育課程を編成します。

教育内容

（1）

変動する世界で能動的に学び行動する人間に必要不可欠となる種々のリテラシーや倫理を学生が獲得できるよう、多様な学問分野から成る「全学共通科目」に加えて、情報科学の基礎となる「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」や「高大接続科目」を配置します。これらの科目は大学での学びの基盤を養い、ものの見方の多様性への理解を促します。

（2）

学科に「学科基礎科目」を配置して、各専攻ないしは語学プログラムで修得する言語の背景にある文化や社会に対する理解を深め、「世界の多様性を観る力」を養います。また、専攻する言語（語学プログラムにおいては英語）に加えて、別の言語を修得する科目も体系的に提供します。これらの科目では、他者の意見を理解し、自分の意見を表明することができる能力を身につけさせるとともに、言語間の対照を通じて、言語と文化に対する複眼的な思考力を養います。

（3）

「高度な外国語運用能力」を獲得させるために、「専攻語学」科目を体系的に提供します。開講するすべての授業科目をそれぞれのレベルに応じて4つの階程の中に位置づけ、段階的に学修を進めます。

〔中略〕

（4）

外国語学部英米学科、ロシア学科、中国学科、イスパニア学科では、2年次から5つのコースのい

¹ 文言等については、現在も学内で検討中であり、今後、大幅に変更となる可能性があることに留意

ずれかに所属して専門的な科目を学びます。高度な外国語運用能力に加えて、体系的な学問習得により柔軟かつ論理的な思考力と精緻な表現力を身につけます。

国際関係学科では、専門教育における学際性をより重視し、2年次から4つのコースのうち、**グローバル政策コース**あるいは**国際ビジネスコース**のいずれか1つを主専攻、主専攻としたコース以外のコースを副専攻とし、2つの専攻分野の知見をもとに国際問題を複数の視点から観察、分析し、思考する力を身につけます。

新学科では、複数の分野にまたがる幅広い知識と多角的な視野に基づく異文化理解を育むことを重視しています。2年次からは4つのコースの中から、**多文化共生コース**または**リベラルアーツコース**のいずれか1つを主専攻として選択し、あわせて主専攻以外のコースを副専攻として学びます。2つの専攻分野の知見を組み合わせることで、文化の基層を捉える力を養い、多文化共生社会の構築に主体的に寄与できる能力の修得を目指します。

また、コースを横断する形で開講されるテーマ研究プログラムでは、学生は各自の希望やニーズに応じて、特定のテーマ・分野についての理解を深めることを目指します。

【学部】

(4.1) 語学文学コース

語学文学コースでは、英語、ロシア語、中国語、スペイン語の各語圏における言語、文学、文化およびその隣接領域や関連分野に関して、幅広い視野から、体系的で専門的な知識を深めるとともに、**的確で柔軟な言語運用能力に裏打ちされた高いコミュニケーション能力**と複眼的な批判的思考力の養成を行います。

(4.2) グローバル政策コース

グローバル政策コースでは、国際関係論、政治学、法学、経済学、地域研究などの専門領域の知見を深め、一国のみでは対処できない国際社会が抱える諸課題を理解し、解決する力を養います。ここでは、国と国の政治的・経済的・文化的つながりを背景として、国家間の対立と協調が繰り返される国際情勢に向き合いながら、より良い国際秩序に寄与するのに必要な構想力と実践力を培います。

(4.3) 国際ビジネスコース

国際ビジネスコースでは、法学、経済学、経営学、商学、地域研究などの研究領域の基礎を踏まえた上で、各専門領域を体系的かつ総合的に学ぶことを通じて、国際社会で事業活動を行うために必要となる力を養います。また、各自の課題発見能力、課題解決能力、コミュニケーション能力を磨くことによって、国際的視野に立って国際ビジネスの場で縦横に活躍するのに必須となる実践力を培います。

(4.4) 多文化共生コース

多文化共生コースでは、異なる価値観の共生が可能な社会の構築に向けた実践力を養うことを目指します。**国籍、民族、宗教、文化、言語、ジェンダー、障がい、世代の多様性、異文化理解**などについて分野横断的に学び複眼的な視点を身につけるとともに、**日本の言語・文化・社会の特徴を他者に伝えることを通じて他者と協働する能力**を磨きます。

(4.5) リベラルアーツコース

リベラルアーツコースでは、哲学・心理学・社会学・言語学・歴史学・教育学・スポーツ学・情報科学・自然科学などの多様な学問領域を専門的に深く学ぶことを通して、自由で柔軟な発想力と確かな思考力、対話的に学ぶ力を培います。この力を通じて、A I との共生のあり方を考究し、人間とは何かという深い問いに能動的に立ち向かい、次代を切り開く新たな価値を創造する力を養成します。

〔中略〕

(5)

各自の学びの経験に基づいて自ら課題を発見し、学術的基盤に立った論理的な分析を行うことを通じてその課題の解決を図るため、2年間にわたるゼミ形式の「研究指導」を配置し、世界を俯瞰する視点と世界に向き合う姿勢を養います。

学修成果の評価

各授業の成績評価では、本学で定める成績評価基準及び授業科目毎に定める評価の方法・基準に基づき、厳格に評価します。

語学教育（専攻語学・兼修語学）では、当該言語とその背景に対する理解と知識に裏打ちされた運用能力について、各階程ごとに設定した到達目標に照らし、一定の水準に達しているかどうかを評価します。全学共通科目、学科基礎科目、コース科目など語学教育以外の各科目区分では、ディプロマ・ポリシーに照らし、一定の水準に達しているかどうかを評価します。どちらも、その成果はGPAに反映されます。そのような成績評価の可視化によって学生が主体的に自己の到達度を認識、評価できる機会を提供します。

学位は、ディプロマ・ポリシーに定める「能動的・領域横断的に学ぶ力」「世界の多様性を観る力」「高度な外国語運用能力」「専門的思考力・表現力」「グローバル化された社会で行動し生きる力」の5つの力を身につけているかどうかを総合的に評価したうえで、授与します。